施設およびサービス改善によるバリアフリー化事例

太田（おおた）　梨緒（りお）
（三田メディアセンター）

1　はじめに

私がSDGsという言葉に出会ったのは，2016年，湘南藤沢キャンパスでのことである。キャンパス中にSDGsのロゴや説明が書かれた100種類，2,500枚のステッカーを貼り，SDGsの認知度を高めるという取り組み[1]で，蟹江憲史研究会[2]を中心として行われた。教室や食堂はもちろん，メディアセンターの閲覧席も鮮やかに彩られたのが強く印象に残っている。本稿では「SDGs（持続可能な開発目標）」の17目標のうち，3つの目標に焦点を当て，メディアセンターの施設およびバリアフリーに関する取り組みの事例を紹介する。

2「目標4　質の高い教育をみんなに」

すべての利用者が障害なく図書館の施設やサービスを使えるよう改修・改善を進めている。2019年に日吉メディアセンター，2021年に三田メディアセンターでエントランス扉の自動化工事が行われた。以前のエントランス扉は金属製で重量があり，高齢者や車椅子ユーザが通行に難儀することも多かったが，工事により全利用者が負担なく通れるようになった。台車やブックトラックの出入りもスムーズになり，スタッフや納入業者の作業効率も向上した。また，ドアに直接触れずに済むため衛生上の不安も軽減された。

1991年の開館当初から自動ドアが設置されている[3]湘南藤沢メディアセンターには，視覚障害を持つ学生に向けた「AT ROOM」がある。ATはAdaptive Technologyの略で，電子拡大機[4]が設置された個室を利用することができる。この設備を必要とする学生が入学した際は学生部や管財部などを含めた複数部署で連携がなされ，必要に応じて図書館内に点字ブロックを敷設する対応も行っている。

図1　三田メディアセンター入口

図2　湘南藤沢メディアセンター点字ブロック

三田，信濃町，理工学メディアセンターでは筆談器を用意している。聴覚障害や会話に困難がある場合だけでなく，増加傾向にある留学生とのコミュニケーションにも役立つ。理工学メディアセンターのカウンターには様々な用途で使えるiPadも置いてあり，音声認識ソフトや外国語会話アプリがインストールされている。

職員を主な対象として毎年開催している「メディアセンター研修会」では，2018年から主に聴覚障害者に対する情報保障のための対応を行っている。2018年から2020年は音声を認識しリアルタイムで文字起こしのできるアプリ「UDトーク」[5]を導入した。無料版は誰でも利用できるが，研修会では協生環境推

進室[6]が契約する法人版のアカウントを使用し，機器借用の協力も得た。2018年の研修会テーマは「ダイバーシティを意識する～大学で，図書館で～」[7]であり，参加者も実際にこのようなコミュニケーションツールに触れることでその利便性を実感することができた。なお，情報保障の方法については都度新しい情報を収集し，外部業者による同時文字翻訳修正や人力による文字翻訳なども取り入れている。

2020年には全メディアセンター共通のWebサイトに「サポートが必要な方」[8]というページを追加した。ページを作成，維持管理するにあたり，各メディアセンターの状況や取り組みの情報共有が進み，職員の意識が高まる効果もあった。当初は，後述する「お子さまを連れての入館」についての記載のみであったが，障害を持つ利用者に向けた記述など徐々に内容を充実させている。また，協生環境推進室作成のWebページ「バリアフリーマップ」[9]や「障害学生支援～@easeプロジェクト～」[10]へのリンクも作成し，慶應義塾全体の取り組みにもアクセスを促している。それらのページにもメディアセンターに関する項目が追加され，相互に記載することによって支援のネットワークが可視化された。

協生環境推進室とは身体的介助が必要なメディアセンター職員に対するサポートにおいても協力関係にある。支援が必要な学生に向けて活動する@easeサポーターを，就業サポートのためにも派遣してもらっており，教育を受ける側だけでなく提供する側も含めた環境向上が進められている。

図３　Webページ「サポートが必要な方」

３「目標５　ジェンダー平等を実現しよう」

メディアセンターの利用は原則として高校生以上に限られるが，利用者自身が小さな子どもを同伴することは可能である。三田，日吉のメディアセンターでは2016年頃から子ども同伴の利用者に向けた案内を始めた。三田では多目的トイレにベビーシートとベビーキープを新たに設置した。時を同じくして，一般にも開放している展示室の入場年齢制限を撤廃し，誰でも見学可能とした。階段には転落防止柵を設け，子ども同伴の利用者向けにリーフレットも作成した。他の方の利用を妨げることなく，かつ，保護者自身も安心して学習・研究できるよう必要な注意事項を記載した。

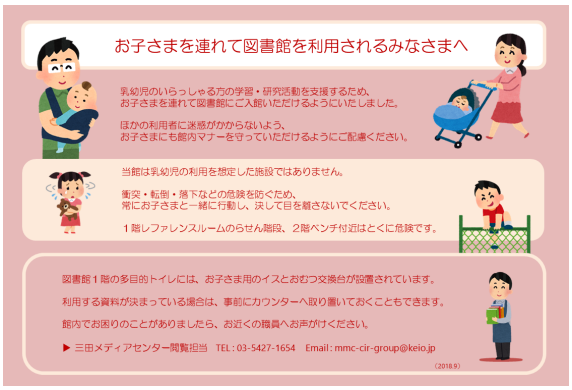

図４　リーフレット

乳児を連れた学生からの相談がきっかけで「母子が離れるのが難しい時期にも，母親であるということを理由に学習・研究が阻害されることのないように」と始まった取り組みであったが，実際には父子での利用も少なくない。妊娠，出産した女性や育児をする男性の就学・研究・就業環境が害されることはマタニティ（パタニティ）・ハラスメントと呼ばれ，防止すべき人権侵害のひとつである。SDGsにおける目標達成を意識したサービス改善は，このような社会問題の抑止にも繋がっている。

各館によって設備やサービスは異なるが，現在ではすべてのメディアセンターで子どもの同伴が可能になっている。前述したWebページ「サポートが必要な方」では各メディアセンターの設備，利用可能なサービスが一覧できるようになっており，ベビーカーでの入館や，多目的トイレ，資料の出納サービスなどについての情報がまとまっている。

４「目標13　気候変動に具体的な対策を」

これまでも館内に冷水器を設置しているメディアセンターは複数あったが，口元を寄せて直接飲む必要があることから，新型コロナウイルス感染症流行下においては感染防止のためすべて使用を停止した。

2022年，理工学メディアセンターでは冷水器を撤去し，代わりに手持ちの容器（マイボトル）に冷水もしくは常温水を汲むことができるウォーターサーバーを導入した。すべての利用者に安全な飲み水を提供することができ，キャンパス内のペットボトルゴミ減少も期待できる。その評判を聞き，三田でも同じウォーターサーバーを設置した。さらに2023年には日吉でも別メーカーのものを導入した。湘南藤沢では，既存の冷水器にノズルを取り付けることでマイボトルへの水汲みを可能とした。大学全体でもマイボトルの使用を推奨し始めており，協生環境推進室ではウォーターサーバー設置箇所をキャンパスごとのマップにまとめている。

図５　ウォーターサーバー（三田）

図６　ノズル装着後の冷水器（湘南藤沢）

昨今の夏は「災害級の暑さ」と表現されるほどである。一方で，涼しさを期待される図書館もキャンパス内の一施設として積極的な節電対応を求められている。湘南藤沢では館内各所に温湿度計を置き，長期的に環境をモニターしている。その記録をもとに，管財部と換気量も考慮した最適な空調設定を検討し，設定変更を行った。三田でも同様のモニタリングを開始している。

そして，図書館にとって特に影響の大きい自然災害といえば地震である。発生するたび，館内に異状がないか，資料が落下していないか見回りを行う。特に東日本大震災以降は，利用者の安全を守るため，資料の破損を防ぐため，各メディアセンターで耐震対策を重ねてきた。

信濃町では資料落下防止機能付き書架の導入や，書架自体の転倒防止対策を行うなどしている。薬学や湘南藤沢では書架に滑り止めテープを貼っている。三田では2021年より三ヶ年計画で書架の上２段分に書籍落下防止装置の設置工事を行った。一定以上の強さの揺れを感知すると落下防止バーが持ち上がり，資料が落ちるのを防ぐ仕組みである。すべての書架に設置するのは難しいため，閲覧席に面した書架や，避難経路として確保したい大きな通路の近く，過去の地震で資料が多く落下した箇所に絞って設置を決めた。写真の書架上段は通常の状態，下段は装置が作動した状態である。

図７　落下防止バー

５　おわりに

三田メディアセンター閲覧担当に着任し，施設・工事関連業務を担当するようになってから，図書館施設の維持管理は決して簡単ではないということを日々感じている。施設の規模が大きく，フロア数も多いため，優先順位を考えながら計画と予算申請を行う必要があり，場合によっては数年単位のプロジェクトとなる。携わる人間が入れ替わり，当初の構想や熱意が引き継がれないことや，様々な原因で頓挫

しかけることもある。施設に限らず，サービスの導入や見直しについても同様である。しかし，利用者が図書館で学習・研究する際に発生しうるバリアを可視化し取り除くために，組織として課題に対して持続的に取り組んでいかなければならない。そのようなとき，SDGsという広く共有された世界的かつ大きな目標が存在することは，一つの推進力あるいは説得力となってくれるであろう。

注・参考文献

1）“教育現場におけるSDGsの達成に資する取組”．文部科学省．
https://www.mext.go.jp/unesco/sdgs_koujireisyu_education/detail/1418154.htm.

2）2019年には同研究室と湘南藤沢メディアセンターの共催でセミナー「SDGsの歩き方：統計データからのアプローチ」を実施した

3）種田昭彦．“メディアセンター棟の紹介”．KULIC．1991. No. 25．p. 7-10

4）電子拡大機は湘南藤沢事務室学事担当が設置している

5）“UDトーク”．UDトーク．
https://udtalk.jp.

6）“協生環境推進室とは”．慶應義塾協生環境推進室．
https://www.diversity.keio.ac.jp/about/main.html

7）慶應義塾大学メディアセンター．“第15回メディアセンター研修会”．
https://libguides.lib.keio.ac.jp/kenshu/kenshu18

8）“サポートが必要な方”．慶應義塾大学メディアセンター．
https://www.lib.keio.ac.jp/services/support.html

9）“バリアフリーマップ”．慶應義塾協生環境推進室．
https://www.diversity.keio.ac.jp/bf/bf_map.html

10）“障害学生支援～@easeプロジェクト～”．慶應義塾協生環境推進室．
https://www.diversity.keio.ac.jp/ease/ease.html